

野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第216号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 2024年6月21日

ジョウビタキ



2023.10.19 札幌市北区 荻戸川緑地

撮影者 辰 巳 昌 江 (札幌市北区)



も く じ

環境を守り 鳥を楽しむ 野付半島野鳥図鑑を発行	
野付半島ネイチャーセンター センター長 藤井 薫	2
【バードウォッチャーズ・スケッチブック】	
誤記！学名が？いや地名が コゲラ 札幌市中央区 本間 康裕	4
【野鳥情報コーナー】日高管内様似町 キガシラシトドの観察	
浦河探鳥クラブ 武内 秀仁	6
野幌 カラアカハラの観察 江別市 武藤 幹太	6
会員一筆 ダイサギの餌“横取り”作戦 石狩管内当別町 道川 富美子	7
追悼 戸津先生さようなら 北海道野鳥愛護会副会長 富川 徹	7
2023年度北海道野鳥愛護会探鳥会記録	8
2024年度総会報告	11
探鳥会ほうこく／表紙の鳥	13
探鳥会あんない／鳥民だより	16

※本誌に掲載する写真のカラー版は、当会ホームページ(<https://aigokai.org>)で閲覧することができます。

環境を守り 鳥を楽しむ 野付半島野鳥図鑑を発行

野付半島ネイチャーセンター センター長 藤井 薫

道東の別海町と標津町にまたがる野付半島（写真1）はすでに皆様もご存じのように、優良な探鳥地として、道内外はもとより国際的にも知られる存在ですが、あらためて現在の野付半島の野鳥の状況を紹介いたします。



写真1. 野付半島 ポンニクルの森を望む

まず、野付半島でこれまで記録された野鳥は2024年3月末現在で275種となっています。これは野付半島ネイチャーセンターが、これまで発表された文献や報道資料、様々な関係者による客観的な情報などをもとに「野付半島鳥類リスト」（春別川河口～野付半島先端までの範囲）として作成したものです。現在も野付半島ネイチャーセンターで追加検討を行っているところですが、近隣の根室市の鳥類リストが360種を超えていることを考えると、実際には様々な理由で、欠落している鳥種も相当数あると思われます。しかし、無理に記録を洗い直すのではなく、焦らず一つひとつ精査しながらこれからも記録していきたいと考えています。

＜多様な野鳥が生息する四つの特色＞

その野付半島の野鳥の特色は、主に四つの観点があると考えています。

一つ目は、ガンカモ類やシギチドリ類などの水辺を好む鳥の比率が高いことで、これは主に野付半島の環境が反映していると考えられます。

二つ目は、春と秋の渡り鳥の時期に種類数も渡来数も急増することです。野付の渡りの時期は、例年、春は4月下旬から5月下旬、秋は9月下旬から10月中旬ですが、その時期であれば1日の観察で種類数は50種以上、数は1万羽を超える野鳥を観察することが可能です。

三つ目は、半島全域が特別天然記念物のタンチョウ、天然記念物のオジロワシ、希少種のアカアシシギ、チュウヒなど貴重な鳥類の繁殖地であることです。

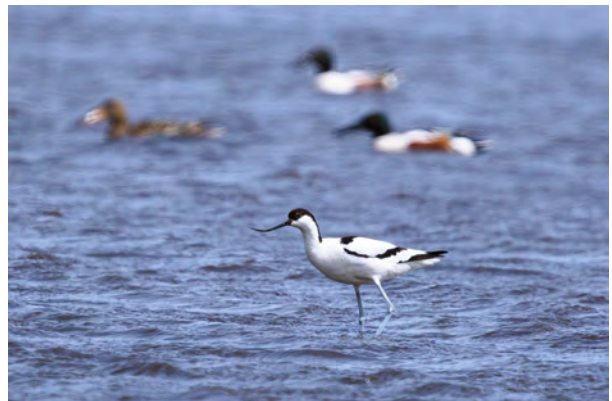


写真2. ソリハシセイタカシギ 2023.5.24 春別川河口

四つ目は、北米からの渡りルートと極東ロシアのルートの二つが交差する地勢的な位置にあり、その関係で、思わぬ鳥が渡りの時期に出現することです。2023年だけを見ても、ソリハシセイタカシギ（写真2）、オオキアシシギ、ミズカキチドリ（可能性は高いが断定できない参考記録）、コヒバリ、シラガホオジロなどが観察されています。この四つの要素が野付半島の鳥類の多様性を生み出している要因と考えています。

さらに探鳥地の特色としては、コンパクトなエリアに淡水湿地、湖沼、塩性湿地、干潟、草地、森林など多様な環境（写真3）が混在することで、短い移動距離でも多くの野鳥と出会えるチャンスがあることです。加えて、平坦な地形であることから、道路からの見通しが良く鳥を見つけ易いことも野付半島の大きな特色といえます。今冬にはベニヒワの大規模な群れの飛来（写真4）も久しぶりに確認できました。



写真3. 多様な環境が混在する野付半島 小沼付近の森



写真4. ベニヒワの飛来 2023.12.3 半島の基部にて

<楽しみ方を提案する野鳥図鑑を発行>

野付半島ネイチャーセンターとして最大の懸念は、昨今のデジタルカメラの発達により、気軽に写真を撮る方々が急増するなかで、野生生物や自然環境との関わり方に大きな問題があることです。

具体的には植生への踏み込みや規制エリアへの無許可での立ち入り、餌付けなどが非常に多くなっています。

そこで野付半島ネイチャーセンターでは、北海道自然雑

誌「faura」のシリーズ企画「野付半島野鳥図鑑」の連載10年を契機に、新たな追加や修正を加えて、3月に書籍として発行（写真5）しました。特徴は今後も持続的に野付半島での自然と親しめるような接し方や見方を提案する内容を盛り込んだことです。この「野付半島野鳥図鑑」を通して、より多くの皆様が自然環境を守る意識を持ちながら、末永く野鳥との出会いを楽しめるように願いを込めています。

発刊に併せて、野付半島ネイチャーセンター、浜小清水モンベル店2階、中標津空港ロビーなどの各ギャラリーで特別写真展を開催してきました。今後も様々な場所で移動展を予定しています。販売につきましては全道主要書店、野付半島ネイチャーセンター売店（通販あり）、発行元ナチュラリーのfauraストアなどでお買い求めできます。



写真5. 野付半島野鳥図鑑 2024年3月発行

最後に、今の時期の野付のお勧めは、6月～7月の野付半島野鳥観察舎からの、珍しいハジロクロハラアジサシやクロハラアジサシ（写真6）の貴重な夏羽です。間近で見ることができるかもしれません。また、8月以降の干潟でのシギチドリ類もお勧めです。種類数は春より多く、時に驚くような種との出会いも期待できると思います。



写真6. 夏羽のクロハラアジサシ 2023.6.10 野鳥観察舎から

バードウォッチャーズ・スケッチブック

誤記！学名が？いや地名が コゲラ

札幌市中央区 本間 康裕



コゲラ（雌） 2023.4.8 円山公園（札幌市中央区）

1980年代の末、北見市に住んでいたころの話です。小高い所からマチの写真を撮ろうと、知らない山道を車で走っていました。道の奥に車を止める所があり、そこに車を置いて、ちょっと登るとお社がありました。その前の木立が開けていて、写真を撮るには格好の場所です。だれもいない山中で、お社に背を向けてカメラを構えていると、突然、「ギイー」。お社の扉が開いたと思って振り返ると、戸板は動いていません。人もいないし、風もない。再度、写真を撮ろうとすると、また「ギイー」。恐ろしくなりました。あわてて車に戻り、山道を引き返しました。車中でやっと気が付きました。コゲラの鳴き声だったのです。

日本産キツツキの仲間はいって「キツ」とか「ケツ」とか鳴くのですが、コゲラはこんな鳴き声で、もの知らずな臆病者（筆者のことですよ）を驚かせるのです。でも、その鳴き声で存在に気づくことも多いのです。絵にした札幌市中央区の円山での観察（2023年4月8日、2015年3月16日）の時は声が聞こえたかどうか、残念ながら記憶がさだかではないのですが、絵はいずれも雌です。

一方、雄は頭の横に小さな赤い斑点があります。でも筆者のような目の悪い（注意力の不足した）者には野外では斑点が小さくてわかりません。そこで、以前撮った写真を拡大しつつ調べたところ、赤点を付けた雄のコゲラを発見しました。これは札幌市中央区の知事公館庭園で観察したものです（2016年5月1日）。それにしても赤点なんて落第生みたいだな。

さて、そんなコゲラですが、ケラというのはキツツキ類のこと。なぜキツツキがケラなのかというところ… それを書くだけで「バードウォッチャーズ・スケッチブック」1回

分になってしまうので、別な機会に譲りますが、ともあれ、このケラの中で小さい方だから、「コゲラ」と、わかりやすい名前です。

<英名のPygmyについて>

英名もわかりやすくJapanese Pygmy Woodpecker（日本の、ピグミーのような＝小さい、キツツキ）といいます。ジャパニーズとあるのは、日本国内のほか、中国東北部など、ほぼ日本周辺にいる（日本鳥類目録による）からです。で、「ピグミー」というのはアフリカの赤道森林地帯の黒人種だそうです。男子の平均身長が150cm以下で、世界最古の人類ともいわれます。そこから、小さな動物に「ピグミー〇〇」と名付けられるのですが、これって、いかがなものでしょう。人種の身体的特徴を動物名につけるなんて、差別ではないかと思うのです。

また、この「ピグミー」というのは、もともとはギリシャ神話のピグミという小人で、ツル（あるいはコウノトリ）に襲われたというのです。「ピグミーという名前をつけてやったのはわれわれヨーロッパ人なのだから、その名前を動物や野鳥につけて、どこが悪い」という考えだとすれば、なんと尊大な！だいたい、ここは語句の説明なので、しかたなく「ピグミー」と書いてきましたが、新聞などでは「ピグミー族」は差別用語として使用禁止で、「ムブティ人、トワ人（～系、～民族）」と書き換えることになっています（と書いてきた私も差別者か…お許しを）。

ここはIOC（汚職や参加国問題で揺れるオリンピックじゃないほうのInternational Ornithological Congress 国際鳥類学会議）あたりで改名してほしいと個人的には思うのですが…



コゲラ（雌） 2015.3.16 円山公園

＜学名のkizukiは誤記か地名か＞

英名に文句をつけてしまいました、学名もちょっと“問題”（個人的には）なのです。学名は*Dendrocopos kizuki*といいます。*Dendrocopos*はギリシャ語で「木をつつくこと」だそうで、これはこれでいいのですが、*kizuki*ってなんでしょう？いつもこの原稿を書くにあたってタネ本にしている「鳥の学名」（内田清一郎 ニュー・サイエンス社）では「キツキの誤記」とははっきりと、語気鋭く、指摘しています。

コゲラの学名をつけたコンラート・ヤコブ・テミンクという人は学名に現地の鳥の呼び名をつけるのが好きでした。それはとてもいいことですが…コマドリの学名に*akahige*、アカヒゲに*komadori*とつける間違いをしてしまいました（このあたりについては「北海道野鳥だより」180号 2015年6月掲載の「鳥の名前 その2」に詳しいので、北海道野鳥愛護会HPからバックナンバーを見てください）。そのため「*kizuki*も同じようにキツキを間違えたんだろう」と思われたのではないのでしょうか。筆者も長くそう信じていました。ところがそうではないという話があることを最近知りました。



コゲラ（雄） 2016.5.1 知事公館（札幌市中央区）

札幌の旭山記念公園が出している「アカゲラ通信」の97号（2022年1月11日発行）によると「その昔、大分県杵築で採取された標本が学術的な標準とされたことによる」とあります。そうか、杵築という地名だったのか。誤記じゃなかったんだ。テミンクはオランダのライデン博物館の館長でしたが、幕末の長崎・オランダ商館の医師だったフィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが集めた標本を調べて学名をつけています。長崎にいたシーボルトが同じ九州の大分杵築産コゲラの標本を入手して、それがテミンクの手に入ったのでしょう。

*kizuki*が地名の杵築のことだとしたら、普通、学名では地名の後には～*ensis*（～産の）とか～*icus*（～に属する）といった接尾辞をつけることが多いのですが、それがついていません。ほら、*japonensis*（日本産の）はタンチョウですし、*indicus*（インドに属する）はサシバやヨタカの学名です。でも、地名だけの学名もなかにはあるのです。

皆さんご存じトキの*Nipponia nippon*の*nippon*も「日本」と地名（国名）だけです（ちなみにこの命名もテミンク。当初は*Ibis nippon*だった）。なので、*kizuki*が地名でかまわないことになります。

それにコゲラの基亜種が亜種キュウシュウコゲラであることで、命名のもとになった個体（標本）が杵築産だったことが納得できます。基亜種とはその種を決めるときに、よりどころになった亜種のことです。杵築産の、つまり九州産の、今では亜種キュウシュウコゲラと呼ばれている鳥の標本から、学名がつけられ、その学名に「杵築」を採用したのでしょ。

ところで、*kizuki*は何と読むのでしょうか？学名はラテン語風につけることになっています。当然、読み方もラテン語風にするのがいいんですが、どうも各国の研究者が自分の使っている言語の読み方で発音していることが多いようです。そうすると、テミンクはオランダ人ですから、オランダ語の*z*は濁ります。「キズキ」（あるいは「キツキ」とつけたつもりでしょうね。一方、シーボルトはドイツ人。ドイツ語の*z*はカタカナで書けば「ツ」です（ほら、応援歌の始まりの「Eins zwei drei!（1, 2, 3!）」はアインス、ツヴァイ、ドライと発音するでしょ）。シーボルトは「キツキ」で採集した鳥だよ～と言った（または認識していた）ことでしょう。

～と書いたら話はそんなに単純ではありませんでした。「シーボルトが日本の野鳥について書いた『ファウナ・ヤポニカ』がネットで見られますよ」という情報があり、見てみると… ありゃりゃ！ シーボルトは「*kisuki*」と表記していました。ドイツ語の*su*は濁音「ズ」です。すると、シーボルトは「キズキの鳥」と思って命名したのではないのでしょうか。ここからは推測ですが、オランダ語の*s*は濁らないので、テミンクはシーボルトの発音を尊重して「*kizuki*」（キズキ）と命名したのではないのでしょうか。

それでは漢字の「杵築」はなんと読むのでしょうか。百科事典などによると大分県杵築市の読みは「きつき」（清音）となっています。なんと「*kizuki*」のドイツ語読みということになります。漢和辞典などでは「杵築」の読み「きづき」（濁音）もあることから、幕末には「きつき」「きづき」の双方が通用していたと思われます。

さて、この杵築市には杵築城（別名、勝山城）というお城があります。「日本の城 ポケット図鑑」（西ヶ谷恭弘主編の友社）によると、室町時代の豪族、木付頼直（きつき・よりなお）による築城が始まりといわれています。この木付氏が「きつき」の名前のもとになったのです。この城、江戸時代は松平氏3万2千石の支配となり、明治に及んだとあります。そして同書は末尾に「なお、杵築は本来『木付』と記されたが、幕府の朱印状（所領安堵の公式文書）に杵築と誤記されて杵築に変わった」と付記しています。えっ、こっちは地名の漢字が誤記だったんだ。

（イラスト筆者）

野鳥 情報コーナー

日高管内様似町 キガシラシトドの観察

浦河探鳥クラブ 武内 秀仁



キガシラシトド 2024.2.19 日高管内様似町 田村裕之氏撮影

キガシラシトドについては、北海道野鳥だより215号で、根室での観察事例（2021年2月）が報告されましたが、その後、2024年2月に日高管内様似町でも観察されました。

漢字を当てると「黄頭鶏」。ホオジロ科の鳥です。シトドというのはホオジロ類の奈良時代の古称だそうです。古いに使われたので、巫女の「巫」と「鳥」で「鶏（シトド）」です。

本州や離島での観察例は多いようですが、北海道では215号に掲載の通りで、今回が8例目かと思われます。

第一発見者はアポイ岳ジオパークガイドの田村裕之氏。2月12日ごろからスズメに交じって庭のバードフィーダーに来るようになった一回り大きな鳥に気が付き、19日から写真に収め始めたそうです。その後、浦河探鳥クラブ事務局に「この鳥は何ですか？」と問い合わせてくださったことが新確認につながりました。

事務局も即座には確定できず、会員間で相談。キガシラシトドではないか？という意見が上がったところに、2007年に大阪の個体を見たことのある千葉県立中央博物館鳥類担当研究員平田和彦氏から「キガシラシトドで間違いありません」という返事を頂き、いよいよ確信した次第です。

これまでに直接見たことはなかったもので、同定までにはいぶん時間がかかってしまいました。これで、浦河探鳥クラブの野鳥月別観察記録の記録種が一つ増え、271種となりました。

このキガシラシトドですが、4月6日が最後。ほぼ2カ月間、いたことになります。

野幌 カラアカハラの観察

江別市 武藤 幹太



カラアカハラ 2023.10.13 野幌森林公園

2023年10月13日に野幌森林公園にてカラアカハラを観察しました。秋も深まってきた頃、ツグミ類でも観察できればと思い野幌へ出かけました。ですが、昨秋は木の実のなりが悪くなかなか姿を見かけません。

そんな中、目星を付けていたポイントに着くとさっそく鳥の気配がしました。ヤマブドウの実を食べに10羽ほどのツグミ類の混群がいました。マミチャジナイを主に、ツグミ、クロツグミ、アカハラを確認しました。場所は道路脇で鳥たちの警戒心も強く、車や通行人が通るたびに飛んでは戻ってくるを繰り返していました。

帰宅してから画像チェックをしていると、現地ではクロツグミ雌だろうと考えていた個体に違和感を感じました。まず頭部の色ですが、褐色みがなく青灰色をしています。胸から脇にかけての斑も青灰色でした。自分では思い当たる種もなく、いつもお世話になっている北海道野鳥愛護会の富川徹副会長にアドバイスをお願いしたところ、「カラアカハラ雄では」という回答を得ました。私が記録した個体は、上面がほとんど写っていませんが、頭部やわずかに見える肩の灰色味、胸から脇にかけての橙色などカラアカハラの特徴が見てとれます。

本種は、シベリア南部、アムール川流域、ウスリー川流域、中国北東部、朝鮮半島などで繁殖し、中国南東部、インドシナ半島、希に日本や台湾で越冬します。北海道では迷鳥であり、道北の礼文島や焼尻島の春季標識調査で放鳥記録などがありますが、石狩管内では2016年に札幌市北区屯田にて記録されて以来2例目の観察となるそうです。

再び会えればと2日後に同場所を訪れましたがヤマブドウの実には既に食べ尽くされ、周辺を探しましたが再会はありませんでした。



ダイサギの餌 “横取り” 作戦

石狩管内当別町 道川 富美子



足元を動かすコサギ(右)を目で追うダイサギ(左)
2023.9.18 いしかり調整池

2023年秋、石狩市のいしかり調整池では、ダイサギとアオサギが入り交じり、ひとかたまりになって餌捕りに夢中になっていました。

群れから少し離れた所で、コサギがトントントンと足元を叩いたり、足を激しく揺らしたりしながらゆっくり歩いていました。穏やかな水面に波紋が広がっています。その後、素早く小魚を捕って食べていました。足を使って餌を追いついて捕る『サギの追い出し漁』『サギの足ゆすり漁』ってやつだなと面白く見ていました。

しばらくして、そのコサギに付かず離れずで、ダイサギが後をつけているのに気がきました。ダイサギも傍らで小魚を手に入れています。時々コサギに急接近したり、コサギの前に首を伸ばしたりして、嫌がられている様子も見受けられました。

例年になく5羽ほどのコサギが、長く留まっています。意識して見ると、いしかり調整池のあちこちでコサギとダイサギがワンセットになっています。

「これって、作戦?！」

どうも、セットを組んだダイサギは、コサギが追い出した餌をちゃっかりいただく作戦を取っているようです。巧みな?賢い?ずるい?効率的!な、ダイサギの餌捕り術と見てとりました。私には大発見の『ダイサギの失敬漁』、もっと悪く言えば『ダイサギの横取り漁』と解釈しました。

【会員一筆】

写真1枚、600字以内でdayoriaigo@gmail.comまでお寄せください。

追悼

戸津先生さようなら



戸津 高保さん

1985年から当会幹事となられ、副会長、顧問と会活動に貢献された戸津高保先生が1月に84歳で亡くなられて悲しく思います。

札幌商業高校に勤務をされていたことから、当会でもそのまま戸津先生と呼ばれていました。先生は札幌南高校から北海道大学に進学され、農学部(農業生物学)へと進み、専門はネズミの研究をしていたと聞かされていました。そんなスペシャリストですから、いきものには造詣が深いことは勿論なのですが、目も耳も良いことからあらゆる鳥のさえずり、地鳴き、ぐぜり鳴きを聞き分け、姿なくとも鳥が分かるという、探鳥では誰もが羨ましいほどの聴力の持ち主でした。

高校の理科準備室には貸し出し用の双眼鏡があり、生徒と豊平川の河川敷でバードウォッチングを行うなど、いち早く環境教育に取り組んでおられたことには頭が下がります。また、当会の探鳥会にはどこへでも足を運び、鳥見においては誰よりも鳥を探すのが早く、率先して観察する仲間や初心者に鳥の見方や行動の様子などを、いつもニコニコしながら楽しく、やさしく、分かりやすく解説されていました。その姿がまさしく先生と呼ぶにふさわしい人だと思っています。

そのほか、シマフクロウ保護調査で日高まで通い夜通し調査をしたこと、クマゲラー斉調査では当会担当エリアのまとめ役を毎回担っていたこと、野鳥勉強会では会の趣旨に賛同され余人をもって代えがたい存在であったこと、小樽探鳥会の帰りに小路にある居酒屋で毎年新年会を行ったこと、好きな歌を唄いに皆でカラオケに行ったことなどと、私的なことも含めて思い出は数え尽くせません。

皆から慕われ優しかった戸津先生さようなら、大変お世話になりました。合掌。

北海道野鳥愛護会副会長 富川 徹

※写真は自宅で迎えた72歳の誕生日に撮影したもの

2011年9月25日

2023年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2023.4~2024.3)

科・種名	探鳥地	野幌森林公園	宮島沼	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鵠川河口	野幌森林公園	茨戸川緑地	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鵠川河口	いしかり調整池	宮島沼	いしかり調整池	測量山唐松平	ウトナイ湖	野幌森林公園	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/23	4/30	5/5	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/9	8/20	8/27	9/3	9/24	10/1	10/15	11/12	12/3	1/7	1/21	2/4	3/3	3/17	
キジ科																											
キジ							●																				1
カモ科																											
ヒシクイ																	●			●							2
マガン			●														●									●	3
コブハクチョウ																				●							1
コハクチョウ			●																	●							2
オオハクチョウ			●																	●						●	3
オシドリ	●				●	●		●			●									●							5
オカヨシガモ																										●	1
ヨシガモ			●														●									●	3
ヒドリガモ			●			●	●										●		●							●	7
マガモ	●				●	●				●	●				●		●			●						●	10
カルガモ			●			●	●		●			●			●		●						●				8
ハシビロガモ			●				●										●										3
オナガガモ			●														●	●								●	4
シマアジ			●																								1
コガモ	●	●			●	●	●										●	●								●	8
ホシハジロ			●														●						●				3
キンクロハジロ	●	●			●	●										●	●						●				7
スズガモ			●														●		●				●				4
シノリガモ																							●				1
ホオジロガモ																				●			●				2
ミコアイサ																	●									●	2
カワアイサ																										●	1
ウミアイサ																							●			●	2
カイツブリ科																											
カイツブリ		●	●		●			●			●		●				●									●	8
カンムリカイツブリ			●											●			●						●				4
ハト科																											
キジバト		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●									16
アオバト								●			●																2
ウ科																											
ヒメウ																							●				1
カワウ							●					●		●	●					●							5
ウミウ							●							●	●				●				●				5
サギ科																											
アオサギ			●	●			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●								●	14
ダイサギ							●					●			●	●	●	●		●						●	8
チュウサギ																●		●									2
コサギ																		●									1
ツル科																											
タンチョウ																										●	1
クイナ科																											
クイナ																	●										1
バン																	●	●									2
オオバン			●														●										2
カッコウ科																											
ツツドリ					●	●		●			●																4
カッコウ							●	●	●	●		●															5
アマツバメ科																											
ハリオアマツバメ									●																		1
チドリ科																											
コチドリ												●															1
セイタカシギ科																											
セイタカシギ			●																								1
シギ科																											
オオジシギ										●		●															2
タシギ																●											1
ツルシギ																			●								1
コアオアシシギ																			●								1

科・種名	探鳥地	野幌森林公園	宮島沼	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鶴川河口	野幌森林公園	茨戸川緑地	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鶴川河口	いしかり調整池	宮島沼	いしかり調整池	測量山唐松平	ウトナイ湖	野幌森林公園	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月日	4/23	4/30	5/5	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/9	8/20	8/27	9/3	9/24	10/1	10/15	11/12	12/3	1/7	1/21	2/4	3/3	3/17	
アオアシシギ																		●									1
タカブシギ																●											1
イソシギ														●		●											2
トウネン														●		●		●									3
オジロトウネン																		●									1
ヒバリシギ																●											1
ハイイロヒレアシシギ		●																									1
カモメ科																											
ミツユビカモメ																							●				1
ウミネコ							●							●	●				●				●				5
カモメ																							●				1
ワシカモメ																							●				1
シロカモメ																							●		●		2
セグロカモメ																							●				1
オオセグロカモメ							●		●					●	●				●				●			●	7
ミサゴ科																											
ミサゴ						●												●									2
タカ科																											
ハチクマ																		●									1
トビ	●	●		●	●	●			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	20
オジロワシ		●				●						●		●		●	●			●			●			●	9
オオワシ																										●	1
チュウヒ		●																		●							2
ツミ																			●								1
ハイタカ	●	●				●			●							●			●	●	●				●	●	10
オオタカ						●										●			●	●	●				●	●	4
ノスリ			●															●	●	●						●	5
カワセミ科																											
カワセミ						●																					1
ヤマセミ						●																					1
キツツキ科																											
アリスイ		●							●	●		●															4
コゲラ	●		●	●	●		●			●		●		●						●	●	●		●	●		12
オオアカゲラ							●															●		●			3
アカゲラ	●		●	●	●		●	●	●				●			●	●			●	●	●		●	●		15
クマゲラ			●	●									●														3
ヤマゲラ	●		●	●	●		●			●								●		●							8
ハヤブサ科																											
チゴハヤブサ									●																		1
ハヤブサ																●			●								2
モズ科																											
モズ			●					●		●		●					●	●									6
カラス科																											
カケス																	●			●					●		3
ミヤマガラス																				●					●		0
ハシボソガラス		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●			●		●	●	18
ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	23
クイタダキ科																											
クイタダキ																			●			●					3
シジュウカラ科																											
ハシブトガラ	●		●	●	●			●	●	●	●		●				●	●		●	●	●		●	●		16
ヤマガラ	●		●	●	●			●			●		●						●	●	●	●		●	●		13
ヒガラ	●		●	●	●			●		●	●			●				●	●	●	●	●		●	●		15
シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22
ヒバリ科																											
ヒバリ		●					●		●	●		●					●	●	●								8
ツバメ科																											
ショウドウツバメ									●			●			●			●									4
ヒヨドリ科																											
ヒヨドリ	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●						●	●	●	●		●	●		16
ウグイス科																											
ウグイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●									13
ヤブサメ			●	●	●		●				●	●															6

科・種名	探鳥地	野幌森林公園	宮島沼	藤の沢	野幌森林公園	千歳川	鵠川河口	野幌森林公園	茨戸川緑地	厚別川	野幌森林公園	福移	野幌森林公園	石狩川河口	鵠川河口	いしかり調整池	宮島沼	いしかり調整池	測量山唐松平	ウトナイ湖	野幌森林公園	野幌森林公園	小樽港	野幌森林公園	円山公園	ウトナイ湖	記録回数
	月	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6	6	7	8	8	9	9	10	10	11	12	1	1	2	3	3	
	日	23	30	5	7	14	21	28	4	11	18	25	9	20	27	3	24	1	15	12	3	7	21	4	3	17	
エナガ科																											
エナガ				●	●	●					●									●		●		●	●		8
ムシクイ科																											
オオムシクイ								●																			1
エゾムシクイ						●	●																				2
センダイムシクイ				●	●	●		●		●	●		●														7
メジロ科																											
メジロ				●	●	●					●						●		●	●							7
センニュウ科																											
シマセンニュウ												●															1
エゾセンニュウ									●	●																	2
ヨシキリ科																											
オオヨシキリ										●		●															2
コヨシキリ							●		●			●			●												4
レンジャク科																											
キレンジャク		●																			●	●					3
ヒレンジャク		●																			●						2
ゴジュウカラ科																											
ゴジュウカラ		●				●	●		●		●		●						●	●	●	●			●	●	12
キバシリ科																											
キバシリ		●		●	●	●					●									●	●	●		●			9
ミソサザイ科																											
ミソサザイ																						●					1
ムクドリ科																											
ムクドリ			●							●									●								3
コムクドリ			●						●	●		●				●											5
ヒタキ科																											
クロツグミ				●	●	●		●			●		●						●								7
マミチャジナイ																			●								1
シロハラ																			●								1
アカハラ		●				●																					2
ツグミ		●	●																●	●	●	●		●			7
ノゴマ										●																	1
ノビタキ			●				●		●	●		●		●	●	●											7
コサメビタキ						●																					1
キビタキ					●	●		●			●		●														5
オオルリ					●	●		●					●														4
スズメ科																											
ニュウナイスズメ			●		●	●		●	●		●																6
スズメ							●			●		●		●	●		●						●				7
セキレイ科																											
キセキレイ						●																					1
ハクセキレイ			●			●			●	●		●				●	●	●								●	9
アトリ科																											
カワラヒワ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●		19
ベニヒワ																						●					1
ハギマシコ																							●				1
ベニマシコ		●							●			●				●											4
イスカ																			●	●					●	●	2
ウソ																			●						●	●	3
シメ																			●			●			●	●	3
イカル						●		●			●								●								4
ホオジロ科																											
ホオジロ				●		●											●										3
ホオアカ							●		●	●		●		●													5
アオジ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●				●										12
オオジュリン			●				●					●															3
ハト科（外来種）																											
カワラバト（ドバト）							●								●								●		●		4
観察種類数		27	39	25	32	44	29	31	29	28	28	30	19	16	18	22	36	28	32	32	16	19	26	14	17	27	
参加者数		41	20	35	39	65	12	36	41	40	34	42	19	32	29	46	31	45	27	27	28	25	38	25	36	26	

※1 25回実施（4月16日のモエレ沼、9月10日の野幌森林公園、10月8日の野幌森林公園、11月5日の野幌森林公園は中止しました）

※ 2 総観察種 42科 140種、1回平均 26.6種

※3 延参加者数 839人、1回平均 33.6人

2024年度総会報告

日 時：2024年4月10日(水) 午後2時～3時30分

場 所：かでる2・7 110会議室

樋口孝城会長挨拶のあと、議長に栗林宏三氏を選出した。審議のうえ、原案通り可決、承認された。

【会長挨拶要旨】

予定した探鳥会がほぼ開催できた。コロナ禍前を凌ぐ参加者になっており大変喜ばしい。会員も増加で推移しており、参加者の皆さんに、より楽しんでいただける会にした。同様な団体の中でも比較的うまくいっている。今後、10年、100年と永続するような団体としていきたい。

(議事)

1. 2023年度事業報告

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催 (エルプラザ2F環境プラザ)
期 間：2023年5月10日(水)～23日(火)
出 展：22名 43点
引き続き6月1日(木)～30日(金)
野幌森林公園自然ふれあい交流館にて実施
- (2) 「北海道野鳥だより」の発送「212号～215号」
- (3) 新年講演会・野鳥写真映写会：4年ぶりに開催
かでる2・7 59名参加
講 師：富川 徹副会長 映写会7名発表
- (4) 定例役員会の開催 (毎月1回、計12回)：予定通り開催
- (5) 傷害保険の更新 (対象者 884名 保険料 17,864円)

〔広報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」の発行「212号～215号」
(野鳥だより編集委員会)
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営
(ホームページ運営委員会)
- (3) 年間予定表配布

〔探鳥〕

- (1) 探鳥会の開催 25回
(延参加者数839人 1回平均33.6人)
- (2) 小樽港探鳥会：4年ぶりに開催
- (3) いしかり調整池環境保全活動
・6月26日に花壇の植栽、7月25日に水やり
・8月31日・9月3日・10月1日・10月31日に清掃活動

〔その他〕

- ・2023年度は各位のご努力により新規会員数が漸増してきており、大変ありがたい傾向

2. 2023年度決算報告

2023年度決算報告書 (別掲の通り)

3. 会計監査報告

白澤昌彦監事から適正処理の報告があり、承認

4. 2024年度事業計画

〔総務〕

- (1) 野鳥写真展の開催
期 間：2024年5月10日(金)～23日(木)
午前9時～午後6時
場 所：エルプラザ1F 情報センター
- (2) 引き続き野幌森林公園自然ふれあい交流館にて写真展
期 間：2024年6月1日(土)～30日(日)
- (3) 「北海道野鳥だより」の発送「216号～219号」
- (4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催
会場・内容未定：9月ごろまでに詳細を決定
- (5) 定例「役員会」の開催 (毎月1回、計12回)
- (6) 傷害保険の更新
- (7) 関連団体との協力 (野幌森林公園を守る会など)

〔広報〕

- (1) 「北海道野鳥だより」の発行「216号～219号」
(野鳥だより編集委員会)
- (2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営
(ホームページ運営委員会)
- (3) 年間予定表の各施設への配布

〔探鳥〕

- (1) 探鳥会の開催 29回 (小樽港探鳥会も実施を計画)
・宿泊探鳥会：中止とするが、次年度以降検討
- (2) いしかり調整池環境保全活動：継続実施
- (3) 鶴川河口探鳥会は、実施するも環境変化を注視

5. 2024年度予算

2024年度予算書 (別掲の通り)

6. 2024年度役員人事

退任：戸津高保顧問 (逝去)、門村徳男幹事 (退会)、
松原寛直監事 (勇退)

新任：武藤幹太 (幹事)、品川睦生 (監事)

顧 問 藤巻裕蔵、小堀煌治

会 長 樋口孝城

副 会 長 富川 徹、栗林宏三、横山加奈子

監 事 白澤昌彦、品川睦生

代表幹事 畑 正輔

幹 事

(総 務) ◎辻 雅司、竹内 強、中村 隆、
畑 正輔(兼)、田中冬彦
(会 計) ◎横山加奈子(兼)、原 美保、浜野チエ子
(探 鳥) ◎早坂泰夫、梅木賢俊、北山政人、
道場 優、鷺田善幸、佐藤ひろみ、
富川 徹(兼)、白田 正(兼)、栗林宏三(兼)、

新城 久、鈴木幸弥、藤吉 功、
大垣 創、武藤幹太

(広 報) ◎國本昌秀、樋口孝城(兼)、川路則友、
道川富美子、中田達哉、白田 正、
先崎理之

◎：各担当代表

2023年度 決 算 書

(収入の部)

項 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算額	予算比(▲減)	備 考
個人会費	520,000	530,000	572,000	42,000	前納、後納を含む
家族会費	166,000	141,000	176,000	35,000	
団体会費	5,000	5,000	5,000	0	
活動収入	0	143,000	143,500	500	新年講演会、小樽探鳥会
雑 収 入	2,500	2,116	3	▲2,113	利息
寄 付 金	0	10,000	201,000	191,000	個人寄付、団体寄付
小 計	693,500	831,116	1,097,503	266,387	
繰 越 金	232,211	278,884	278,884	0	
合 計	925,711	1,110,000	1,376,387	266,387	

(支出の部)

項 目	2022年度決算	2023年度予算	2023年度決算額	予算比(▲減)	備 考
印 刷 費	388,080	390,000	389,800	▲200	野鳥だより印刷費他
通 信 費	157,416	163,000	164,074	1,074	会報発送費、切手代、 ホームページ維持費
会 議 費	37,500	40,600	40,600	0	役員会、総会会場費
活 動 費	0	110,000	125,100	15,100	新年講演会、小樽探鳥会
消耗品費	21,326	24,000	26,735	2,735	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	40,000	0	事務所費用
傷害保険費	2,505	18,000	17,864	▲136	保険代
雑 費	0	10,000	0	▲10,000	設備利用料他
予 備 費	0	314,400	0	▲314,400	
基金積立			200,000		野鳥の会江別支部 解散・寄贈分を繰り入れ
小 計	646,827	1,110,000	1,004,173	▲105,827	
次年度繰越	278,884		372,214		当年度余剰金
合 計	925,711	1,110,000	1,376,387	266,387	

2024年度 予 算 書

(収入の部)

項 目	2024年度予算	2023年度決算	増 減	備 考
個人会費	510,000	572,000	▲62,000	前納、後納を含む
家族会費	166,000	176,000	▲10,000	
団体会費	5,000	5,000	0	
活動収入	144,000	143,500	500	講演会、小樽探鳥会
雑 収 入	2,786	3	2,783	利息他
寄 付 金	0	201,000	▲201,000	個人寄付
小 計	827,786	1,097,503	▲269,717	
繰 越 金	372,214	278,884	93,330	
合 計	1,200,000	1,376,387	▲176,387	

(支出の部)

項 目	2024年度予算	2023年度決算	増 減	備 考
印 刷 費	390,000	389,800	200	野鳥だより印刷費
通 信 費	200,000	164,074	35,926	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会 議 費	40,600	40,600	0	役員会、総会会場費
活 動 費	110,000	125,100	▲15,100	会場費、バス代
消耗品費	33,000	26,735	6,265	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	0	
傷害保険費	17,000	17,864	▲864	保険代
雑 費	10,000	0	10,000	設備利用料他
予 備 費	359,400	0	359,400	
基金積立	0	200,000	▲200,000	
小 計	1,200,000	1,004,173	195,827	
次年度繰越金	0	372,214	▲372,214	
合 計	1,200,000	1,376,387	▲176,387	

積立基金特別会計

(2023年度収支決算)

項 目	金 額
積 立 金	289,990
一般会計より繰入*1	200,000
収入(記念誌販売)	0
差 引 合 計	489,990

(2024年度収入予算)

項 目	金 額
積 立 金	489,990
一般会計より繰入	0
合 計	489,990

会 員 数

	2020. 4. 1	2021. 4. 1	2022. 4. 1	2023. 4. 1	2024. 4. 1
個 人	252名	238名	246名	262名	259名
家 族	135名(60家族)	120名(53家族)	117名(51家族)	113名(50家族)	128名(57家族)
団 体	1会員	1会員	1会員	1会員	1会員
合 計	388名	359名	364名	376名	388名

*1:日本野鳥の会江別支部解散に伴う寄贈分（2023年7月）



森や水辺の探鳥地は留鳥に加えて、北へ帰る鳥、南からやって来た鳥など、春を満喫するシーズンとなりました。毎回、大勢の参加者で楽しむことができました。

円 山 公 園

2024. 3. 3

札幌市中央区 佐々木 準子

北海道野鳥愛護会の会員である友人と共に、円山公園での野鳥観察会に参加させていただきました。初めて参加する私にも、会員の方が気さくに話しかけてくださり、集合時間前から念願のシマエナガにも遭遇するなど、幸先の良い幕開けで観察会が始まりました。



アカゲラ 國本昌秀さん撮影

双眼鏡の使い方も覚えのない私でしたが、会員の方に鳥の居場所を教えてもらいながら、アカゲラの鮮やかな黒と白の羽毛を確認できたときは感動しました。北海道神宮周辺だけでなく、原生林の近くまで足を延ばし、鳥のさえずりに耳を澄ませながら歩くのは、まるで宝探しをしているようなワクワクする時間でした。

途中で、会員の方の立派な望遠鏡で美しい鳥をつぶさに観察させていただくこともでき、感激しました。

観察会終了時には、野鳥チェックリストを片手に観察会で見た鳥を全員で読み上げて確認した際には、わずか2時間で17種類もの鳥が観察されたと知り、驚きました。

自然の中で活動する爽快感と、野鳥を見つけられる達成感を同時に味わえて、まさに一石二鳥の経験でした。私には登山という別の趣味もありますが、その際にも鳥の名前が分かると山を更に楽しめそうですし、新しい世界が広がりそうな予感に包まれました。

当日観察会で配布された北海道ウォッチングガイドを見ると、毎週のように観察会の行事があり、自然豊かな北海道に住んでいるからこそ気軽に始められ、且つ継続できる活動であると感じました。

今後も、定期的に観察会に参加させていただきたいと思

います。が、その前に、まずはマイ望遠鏡を準備し、使い方を学ぶことにします。

【記録された鳥】ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、ウソ、シメ、カワラバト (ドバト)

以上17種

【参加者】青木あけみ、荒木良一、有村静子、石川恵子、石川弓枝、今村三枝子、大橋路子、國本昌秀、栗林宏三、小西美美枝、佐々木準子、佐野純子、品川睦生、菅沼利枝、鈴木幸弥、高井さつき、竹中悦子、田原哲也・美幸、千坂野梨子、辻 雅司・方子、出口悦子、豊口笑子、西窪翠子、畑 正輔、早坂泰夫、原 美保、辺見敦子、本間康裕、前田美紀枝、南 貴和子、山下 茂、山本育子、横山加奈子、吉田慶子

以上36名

【担当幹事】國本昌秀、鈴木幸弥

ウ ト ナ イ 湖

2024. 3.17

寒い風が吹く、鳥見には向いていない天候でしたが、対岸にタンチョウ、氷上にオオワシやオジロワシ、湖上にたくさんのカモ類が見られました。V字飛行のマガンや猛禽類の飛翔もじっくりと観察できました。



タンチョウ 大垣 創さん撮影

【記録された鳥】マガン、オオハクチョウ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、コガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウミアイサ、カイツブリ、アオサギ、ダイサギ、シロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ハイタカ、ノスリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ハクセキレイ、ウソ、タンチョウ

以上27種

【参加者】会川 隆、石塚 肇・鈴子、市橋栄二、岩井 茂、大垣 創、大垣由美子、小田聖子、栗林宏三、小谷内久江、齊藤潤太郎・律子、齊藤 桂・蓮、高島 均、辻 雅司・方子、鳥谷峰 修、中田勝義、畑 正輔、林 仁子、古川浩子、湯浅大輔・創太、吉田慶子、鷺田善幸

以上26名

【担当幹事】大垣 創、鷺田善幸

モ エ レ 沼

2024. 4.14

札幌市北区 道場 優

久しぶりに、モエレ沼の探鳥会に参加しました。青い空がどこまでも広がり、見渡せば残雪が残る白銀の山々が、遠くに望まれました。春の陽光に照らされたばかばか陽気に、なんと60人以上の方々が、集合場所のガラスのピラミット前に集まりました。

モエレ沼は、資料によれば、豊平川と石狩川の河跡湖として残った「つ」の形をした沼です。昔々は、訪れる人も少ない静かな小さな沼でした。イサム・ノグチ氏設計の現在の大公園になる前、かつて私は、湿地の広がる沼に、野鳥の声を聴きによく訪れたものです。静かに釣り糸を垂れている沼には、今はもう、日本ではほとんど見ることでできない「幻の鳥」シマアオジの声が聞こえ、姿もよく見られました。モエレ沼は、私の懐かしい思い出の地でした。



カンムリカイツブリ 辻 雅司さん撮影

大公園には、たくさんの家族連れ姿が見えます。担当の幹事さんは、静けさを求めて、対岸の“探鳥会専用のコース”に移動します。一同、早速目的の水鳥を観察します。全身真っ黒なオオバンがいます。ヒドリガモの群れや、ハシビロガモなどなど。野鳥の姿や、ウグイスの声も聞きました。誰かが、カンムリカイツブリだよ！と、教えてくれました。全員の眼は一直線に鮮やかな“冠”に注がれました。

参加者の顔ぶれは、近年、会員以外に一般の方が多くなってきました。参加者は、野鳥観察の経験に関係なく、お互いに知識や情報を教え合っています。長く“北海道野鳥愛護会”を知る私としては、その姿をほほえましく感じました。今や、探鳥会は、静かに野鳥を観察するだけの場ではなく、参加者の対話の場にもなってきました。見た鳥の名を知るだけでなく、和名の由来や、北海道以外の分布や、世界的な分布、鳥の生態や、体の構造、機能など、更には生物の多様性などなど。ベテランの幹事からだけでなく、初心者であっても学んだ知識、情報を公開し合っている姿、これが本来の探鳥会の姿ではないかと思います。鳥を知ることは、野鳥の“愛護”につながります。

また、鳥から離れて、他人の邪魔にならない程度の世間

話も、本日初めて会った方との“一期一会”の会話も、探鳥会の副産物だと思います。せっかく参加した探鳥会です。縁あって今日の日に出会えた方との対話も、楽しみの一つとして、またたくさんの探鳥会に参加しようと思います。

【記録された鳥】オオハクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、シマアジ、コガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、オジロワシ、ハイタカ、ノスリ、アカゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ゴジュウカラ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、アオジ、オオジュリン、カワラバト（ドバト） 以上42種

【参加者】荒木 淳、荒木良一、石川恵子、石塚 肇、市橋 栄二、猪俣行美、今村三枝子、臼井明夫、太田顕子、大西智子、大橋路子、河合千賀子、北山政人、國本昌秀、久保宏幸、熊川祐三、栗林宏三、小島利幸、小谷内久江、齊藤桂・蓮、佐藤直記・博子、高橋えり、高橋きよ子、高橋貞夫、高橋 正、田島雅子・梢、辰巳研一、田原哲也・美幸、辻 雅司・方子、出口祐一・悦子、道場 優、鳥谷峰 修・心、長瀬真央、中田勝義、中村けいこ、納谷久樹・明美、成田京子、畑 正輔、原 美保、福島 文、藤代欣也、本田和之・三恵子、本間康裕、丸島道子、南 貴和子、武藤幹太・大翔、森田康志、山根志織、湯浅さとみ・創太、横地治雄、横山加奈子、吉田慶子、吉見孝夫・紫乃 以上65名

【担当幹事】北山政人、畑 正輔

野 幌 森 林 公 園

2024. 4.21

江別市 本田 三恵子

昨冬にたまたま庭の木の枝に、スズメではない鳥がとまっていることに気付いてから、野鳥を見ることが楽しくなりました。まだ初心者で、いろいろな鳥を見たいと思っても、どうやったらいいものかと思っていたところ、探鳥会があることを知り、今回で2度目の参加をさせていただきました。



さえずりを頼りに鳥を探す参加者

宮 島 沼

2024. 4.28

冷たい風のなか、50人を超える参加者が集まりました。今年はマガンの北上が早く、この日の数は減って1万羽弱。オジロワシが近づくと飛び立つ様子も見られました。



オジロワシ 高島 均さん撮影

【記録された鳥】 マガン、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、シマアジ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、カンムリカイツブリ、キジバト、アオサギ、オオバン、トビ、オジロワシ、アリスイ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、コムクドリ、ツグミ、ノビタキ、ニューナイスズメ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 以上34種

【参加者】 阿部みどり・いちか、阿部真美、石川恵子、石塚 肇・鈴子、井上 剛、今村三枝子、岩井幸子、白田 正、大橋路子、北山政人、栗林宏三、小坂健介・由佳・優馬・結穂、小西峰夫・芙美枝、小林 恵、小林芳香、齋藤 尚、齊藤 桂・蓮、榮 千晶・千尋、佐藤香織、佐藤ひろみ、高島 均、高島千尋、田島雅子・梢、田中 陽・雅子、辻雅司・方子、鳥谷峰 修・心、畑 正輔、浜野チエ子、早坂泰夫、武藤幹太・大翔、本杉政司・朋子、森田康志、山田恵美子、湯浅大輔・創太、吉田慶子、匿名希望3名 以上53名

【担当幹事】 栗林宏三、佐藤ひろみ

この日はくもり空の寒い一日で、さらに風が強かったせいか鳥の声はそれほど多くなく、前半はなかなか鳥を見られずにいました。そんな時でも先輩方がいつも気さくに声をかけて下さり、鳥をはじめ早春の草花などいろいろな話をしながら楽しく歩くことができました。

小休憩をはさんで大沢園地を過ぎた辺りで、にわかに澄んだ鳴き声とともに、枝から枚へとせわしなく飛びまわる小鳥たちに出会いました。用意してきた今までよりちょっと大きい双眼鏡をのぞくと、その中にヤマガラ姿を捉えることができました。オレンジ色のお腹と白い頬がくっきりと見えた瞬間、そのあざやかな色合いに感動しました。

シジュウカラとハシブトガラを見た時には、シジュウカラは黒のネクタイの太さで雄と雌を見分けられると教えていただき、驚きました。

ほかにもすぐ近くにエナガ、アオジ、キクイタダキがいーたらしいのですが、残念ながら探し当てることはできませんでした。それでもすぐ近くにいたことを知るだけでも嬉しく、いつの日か出会えることに期待がつのりました。

周りでは姿はなくてもウグイスとキジバトの鳴き声を聞きとることもでき、あとで調べたところ春に来る鳥と知りしました。

今回、野鳥に詳しい方々といっしょに森林を歩き、とても貴重な経験ができたことに感謝致します。ありがとうございました。

【記録された鳥】 キジバト、トビ、コゲラ、ハシブトガラス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、ゴジュウカラ、キバシリ、クロツグミ、カワラヒワ、アオジ 以上18種

【参加者】 姉帯哲征、今村三枝子、江澤美佐野、大橋路子、数田真弓、鎌田鍊太郎、栗林宏三、小竹哲太、小丸香余、ジョーダン華織、高島 均、竹内辰浩、田島 梢、田辺七月、道場 優、富川 徹、鳥谷峰 修、内藤美紀、中田勝義、納谷明美、煮雪 隆・与志栄、畑 正輔、藤吉 功、本田三恵子、南 貴和子、森田康志、山中基裕、山本育子、横山加奈子 以上30名

【担当幹事】 栗林宏三、藤吉 功

表紙の鳥

ジョウビタキ



写真は昨年10月、茨戸川緑地の山口橋。ヒッヒッと甲高いよく通る声が聞こえ、水辺を見ると、なんと尉鶉(ジョウビタキ)! えー! こんなところに!? シルバーの頭と、翡翠(カワセミ)とは違う橙色の腹部。あまりの嬉しさと興奮、それにすぐに隠れてしまい、最初はうまく撮れず。でも、しばらくじっと待っていたら、顔を見せてくれました。4年前に百合が原公園で、今年4月にはあいの里公園でも、出会いました。何度見ても興奮。本州以南では普通に見られるようで、以前福岡の探鳥会に参加した時に、尉鶉が見たいです! と言ったら、中学生に、学校に行く時に、電線に止まっているよ! と言われ、ところ変われば、と思ったものでした。 辰巳 昌江(札幌市北区)



【野幌森林公園】

2024年7月14日(日)、9月15日(日)

7月は巣立った雛や幼鳥に出会えるかもしれませんが。9月は秋の気配を感じる野鳥たちの様子を観察します。

今年は大沢園地のトイレが使用できず、短縮コースの冬コース（エゾユズリハコース～志文別線～大沢コース～カツラコース）を歩きます。11：30ごろに大沢口で鳥合わせをして解散します。

集 合：野幌森林公園大沢口 9：00

交 通：JRバス 新札幌駅発（文京台循環線新83）

「文京台南町」下車 徒歩10分

【石狩川河口】2024年8月18日(日)

石狩浜・河口でシギ・チドリ、草地でホオアカやノビタキなどを見ます。はまなすの丘公園ヴィジターセンター前から河口まで砂浜を歩き、河口からは石狩川沿いに戻ります。正午ごろに駐車場で鳥合わせをして解散します。

集 合：はまなすの丘公園ヴィジターセンター駐車場
9：30

交 通：中央バス 札幌ターミナル発（石狩行）

「石狩」下車、徒歩20分

【鶴川河口】2024年8月25日(日)

鶴川河口付近の草原の鳥、砂浜や人工干潟の水鳥、シギ・チドリを探します。11：30ごろに人工干潟付近で鳥合わせをして解散します。

集 合：道の駅むかわ四季の館駐車場 9：30

交 通：JR鶴川駅下車 徒歩10分

【いしかり調整池】2024年9月8日(日)

この時期、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。また、水鳥を狙って猛禽類もやってきます。11：30ごろに鳥合わせを行い解散します。

集 合：いしかり調整池駐車場 9：30

交 通：公共の交通機関はありません。

【宮島沼】2024年9月29日(日)

秋のマガン渡来のピークで、ヒシクイ、ハクチョウ、カモ、カイツブリ類を観察します。時には猛禽類が上空にあらわれ水鳥たちが一斉に飛び立つ場面も見られます。11：30ごろに鳥合わせをして解散します。

集 合：湖畔 10：00

交 通：中央バス 岩見沢ターミナル発（月形線21番）

「大富」下車 徒歩15分

☆雨具、観察用具、筆記用具などお持ちください。

☆悪天候で中止の場合があります。

☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-876-8546

10：00～16：00（土日、祝祭日を除く）

鳥 民 だ よ り

◆2024年度 野鳥写真展 出展者・作品◆



5月10日(金)～23日(木) 札幌エルプラザ1F

市橋 栄二・・・ベニヒワ、オシドリ
大垣 創・・・カワラヒワ、キバシリ
大西 智子・・・亜種アカウソ、ダイサギ
小笠原未来・・・ケイマフリ2点
近藤 章子・・・ホシガラス、亜種アメリカコガモ
佐伯 武美・・・モリムシクイ、ギンザンマシコ
漆崎 修・・・セイタカシギ、カンムリカイツブリ
品川 睦生・・・亜種シマエナガ、キレンジャク
高島 均・・・スズメ（幼鳥）、オグロシギ
高橋 良直・・・オジロワシ、ノゴマ
辰巳 研一・・・ベニヒワ、キクイタダキ
辰巳 昌江・・・ミソサザイ、ホオジロガモ
田中 陽・・・ジョウビタキ、ホウロクシギ
富川 徹・・・コゲラ、ハイイロチュウヒ
中村俊太郎・・・クマタカ、クロツグミ
中村 隆・・・ヤマセミ（日光浴）、ヤマセミ（夫婦円満）
早坂 泰夫・・・アトリ、オオルリ（雌）
道川富美子・・・ソリハシセイタカシギ、
コオバシギ&ミユビシギ
武藤 幹太・・・イスカ、ベニヒワ
吉川 健一・・・ベニヒワ、シマアジ

以上20名40点

※野幌森林公園自然ふれあい交流館で6月30日まで展示後、
当会HP「Photo Album→WEB版野鳥写真展」で閲覧可能。

【新しく会員になられた方々】

出口 悦子 （札幌市中央区）
高井さつき （江別市）
吉野 雅美 （札幌市西区）
長瀬 真央 （札幌市清田区）
田島 雅子・梢 （札幌市手稲区）
森田 康志 （札幌市厚別区）
大橋 路子 （札幌市）
堀内 雅明 （夕張市）
田中利加子 （札幌市白石区）
匿名希望1名

〔北海道野鳥愛護会〕 年会費 個人 2,000 円、家族 3,000 円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2-38 北海道自然保護協会気付 北海道野鳥愛護会 ☎(011)876-8546

HPのアドレス <https://aigokai.org>